

職場みんなで風しん対策

風しんの予防接種を受けましょう

平成25年の「感染症発生動向調査」に報告された風しん患者のうち、推定感染原因・感染経路が職場での感染が原因とした人が70%近くにもものぼりました。健康管理の一環として、職場での風しん予防の取り組みが重要です。

自分のために
仲間のために

職場での健康管理の一環として
感染症対策に取り組みましょう

風しんって何ですか？

感染を防ぐには
どうすればいいの？

何が問題なんですか？

風しんの症状と先天性風しん症候群

風しんとは・・・

風しんウイルスに感染すると14-21日の潜伏期間の後、発熱、発しん、リンパ節の腫れなどの症状が出現します。発熱がみられるのは、風しん患者の半数ほどで、症状が見られない状態も15%程度存在します。

先天性風しん症候群とは・・・

風しんに対する免疫が不十分な妊娠5か月頃までの妊婦が風しんウイルスに感染すると、胎児も風しんウイルスに感染し、障害をもった児が生まれる可能性があります。子どものこれらの病気を先天性風しん症候群と呼びます。

先天性風しん症候群の赤ちゃんの主な症状

先天性の目の病気

- ・白内障
黒目が白く濁って目が見えにくい
- ・網膜症
眼の奥の膜に異常がみられる
- ・緑内障（しょう）
眼の中の圧が高くなる
- など

先天性の耳の病気

- ・難聴
耳が聞こえにくい

先天性の心臓の病気

- ・動脈管開存症
生まれたら閉じるはずの動脈管という管が開いたままになり心臓や肺に負担がかかる
- など

低出生体重児
小さく生まれる

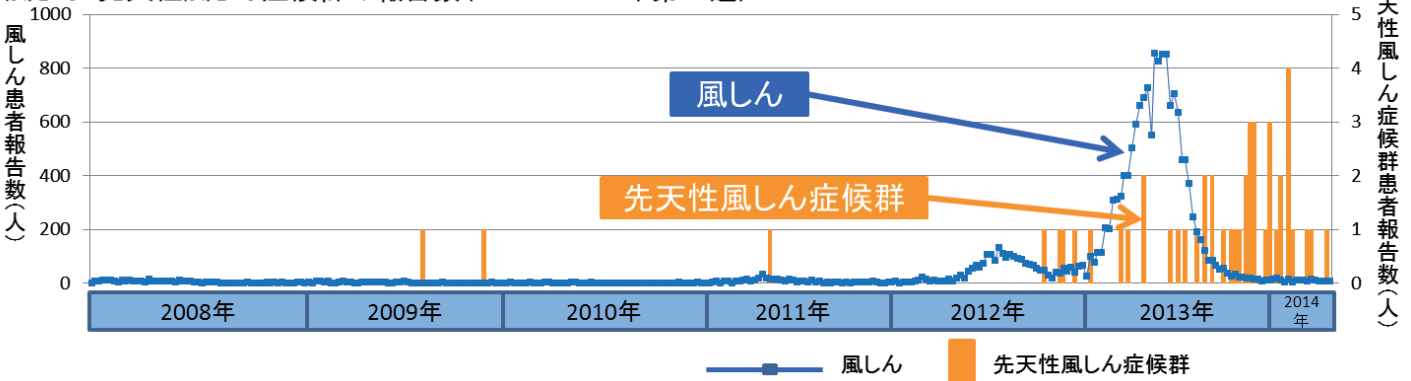
血小板減少性紫斑病
血小板という血液の成分が少なくなり、紫色の斑点が皮膚に出る

など

風しんの流行と先天性風しん症候群

平成24年と25年の風しんの流行では、患者報告数が16,743人で、成人がこのうち約9割を占めました。また、この結果、平成24年第42週～平成26年第13週までの約1年6ヵ月の間で44人の出生児が、「先天性風しん症候群」と診断されました（平成26年5月現在暫定値）。

風しん・先天性風しん症候群の報告数(2008～2014年第13週)

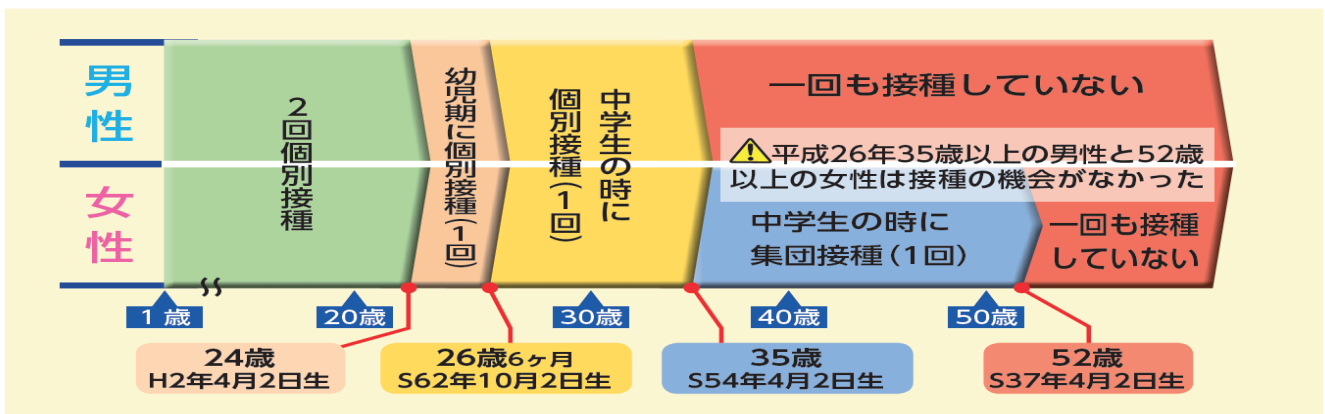


(出典：感染症発生動向調査より国立感染症研究所感染症疫学センター作図：平成26年4月2日現在暫定値)

風しんの予防接種制度

下図に示すように男女別・年代別によって風しんの予防接種制度の違い、過去の風しんの流行時のばく露状況により、風しんのウイルスに対する免疫の保有状況が大きく異なっています。昭和54年4月1日以前生まれの男性は1回も風しんの予防接種を受けていないので要注意。

年代別にみる風しんの予防接種制度の変遷（年齢は平成26年4月1日時点）



(出典；厚生労働省「職場における風しん対策ガイドライン」)

風しんに関するQ&A

Q：風しんって何なの？

A：せきや会話などで飛び散る、飛まつに含まれる風しんウイルスを吸い込むことで感染するウイルス性の感染症です。発熱と赤い発しんが特徴です。



Q：風しんって子どもの病気では？

A：平成24年から25年に流行したときには、『20代～40代の男性』が患者の中心でした。決して子どもだけの病気ではありません。



Q：風しんの何が問題なんですか？

A：感染力が強いこと。症状が出る前後約1週間、他人に感染させる可能性があります。※患者1人が感染させる平均人数は、インフルエンザが1～3人、風しんが5～7人です。職場などで集団感染が発生しやすい状況にあります。

妊娠初期（20週ころまで）の妊婦が感染することにより、胎児へ感染し、児の眼や耳、心臓に障害（「先天性風しん症候群」）をもつ場合があります。

Q：感染を防ぐにはどうすればいいの？

A：予防には、ワクチンの接種がもっとも有効です。感染拡大防止には、実際に風しんの疑いがでた際は無理に出勤せず、主治医や上司と相談しましょう。やむを得ず外出する際は、マスクを着用し、できるかぎり人混みを避けるようにしましょう。



Q：すぐに治りますか？

A：成人の場合、高熱や発しんが長期化することがあります。また、小児より重症化することや、脳炎などの合併症により入院が必要になることもあります。

Q：どんな人が予防接種を受けるべきなの？

A：

- ・妊娠を希望している方（妊娠中は受けられません）
- ・家族・職場に妊婦・妊娠出産年齢の方がいる方
- ・海外出張または国内の流行地への出張を予定している方
- ・多数の方が利用する職場または外部の方との面会機会が多い方

は予防接種をお勧めします。



事業者の皆さまへ

風しん予防は社会全体での組織だった取り組みが重要です。
事業者の皆さまも、BCP（事業継続計画）の観点からの労働者の健康への配慮、およびCSR（企業の社会的責任）の観点から、積極的な取り組みにご協力をお願いいたします。

<予防接種を受けやすい環境づくり>

抗体検査や予防接種が可能な医療機関に関する情報提供実施
医療機関受診に対する配慮

<相談窓口の設置>

産業保健スタッフを中心とした相談体制の整備
(地域産業保健センターなどでも支援・相談が可能です。産業保健スタッフなどのいない事業場の方はぜひご活用ください。)

<教育・啓発>

啓発ポスターなどによる情報提供
研修会などの機会における教育実施
流行地への出張者に対する情報提供や予防接種の推奨

もしかして・・・?と思ったらまずチェック!

◇セルフチェックで自分自身の風しんに対する免疫の有無を知りましょう。

1 風しんの予防接種を受けたことがありますか? ※風しんのワクチンには3種類あります。 【①風しん ②MR（麻しん・風しん混合） ③MMR（麻しん・おたふくかぜ・風しん混合）】 なお、③は、平成元年～5年まで国内で使用されていましたが、現在は使用されていません。	ある・ない・不明
2 風しんにかかったことがありますか?	ある・ない・不明
3 採血をして、免疫を持っているかどうかの検査（抗体検査）を受けたことがありますか?	ある・ない・不明

※セルフチェックシートは国立感染症研究所ホームページからダウンロードできます。

(「職場における風しん対策ガイドライン」の11ページ(添付1))。

<http://www.nih.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/kannrenn/syokuba-taisaku.pdf>

◇上記1、2、3について、いずれも「ない」または「不明」である場合、または3のみ「ある」であっても検査結果が陰性、あるいは判定保留の場合は、麻しん風しん混合ワクチンの接種を推奨します。ご自身とご家族のためにも大切です。

◇平成26年度は、多くの自治体で抗体検査などの助成事業を実施しています。
お住まいの市区町村にお問い合わせ下さい。

詳しくは「職場における風しん対策ガイドライン」をご覧ください。

職場 風しん ガイドライン **検索**